

鉱山用語

令和3年6月6日(日) 10:00~11:30

元別子銅山文化遺産課長 坪井利一郎

1. はじめに

部外者が鉱山関係の本を読んでいたら、意味の分からない用語に出合う。そのたびに読み続けていくことが挫けそうになる。100年前は資源国だったことが嘘のように、国内をみわたしても皆無に近い鉱山業である。そんな中で鉱山史の学習を進めていくには、どうしても鉱山用語を知らねばならない。鉱山用語辞典があれば助かるのだが、無いものねだりしても道はひらけないので、手元の資料をとりあえず50音順に並べてみる。

あ

合吹き	含銀鉱から銀を絞る最初の工程。
合師	共同経営の山師。
青石	緑色片岩。緑泥片岩といった時期もある。
赤金	赤色を帯びた金。
赤砂	金剛砂の異称。金剛鑽ともいう。
赤目	中国山地に多く産する砂鉄。海拔200m前後の所で採れる。
赤湯	品位の低い鉱石。
あかり	坑外。
上り山	藩との契約が切れた鉱山。
あげ孔	上向孔。
あけて	鉱石や素石などを積んだ鉱車をかえして空にする者。
顎受	漏斗口の底板を受け込む柱(底板の補強)。底板受ともいう。
アゲを引く	給料を受け取る。
浅木	雑木。
芦花	製錬の時に生ずる灰。
足中	足半わらじともいう。
厚鉛	あつぱく。下盤側の塊状硫化鉱。
あつかましい	騒々しい、うるさい、凶々しい。
当尻鹿	あてしか。掘り子や杣の敷物。山伏は尻敷 <small>しっしき</small> と呼び鹿皮を尻に吊り下げる。藁や葛などでも作る。別子銅山では方形は平の坑夫、円形は役前の者がつける。
跡間	坑道掘進の間敷(長さ)によって、賃金を払うための作業実績検査。
あへ	鉛鉱。

あます	もてあます。
綱木	グリズリー。摺 <small>ずらし</small> の入口に約30cm間隔に坑木を並べ、鉱石の大塊が摺 <small>ずらし</small> の中に入るのを防ぐ装置。
嵐口	溶鉱炉の通風孔。嵐ともいう。鼓銅図録の挿絵にある嵐口の文字は説明用に書き記していたものが彫られた。
荒吹	第一段階の銅鉱製錬。
粗銅	山元で銅鉱石を製錬してできる。平銅と床尻銅がある。純度は90%程度。
荒所	採掘不能の間歩。
新鉱	あらみ。新発見の鉱床。
合銅	あわせどう。合床で銅と鉛をよく混合して作る。混合の過程で銅中の銀が鉛の中へ移行する。
あんこ	ダイナマイトを装填後に発破孔を密閉するために使用する粘土のこと。
アンホ	硝安と油剤混合の低爆速の爆薬で、昭和30年代後半から使用。
い	
石おろし	鉱石のままで吹ける良品。
石地	手掘時代の用語で極低品位の鉱石で、殆ど素石に近い品位の鉱石。
筏	木積(採鉱跡を充填するために坑木を井桁に組重ねたもの)。
筏材	木積用坑木で普通松。檜の1間物を使用する。
石	鉱石でない石。素石。ズリ。
石銀	いしがね。銀を含む方鉛鉱。
いしじ	低品位鉱で石英の多いもの。
鑄出	いだ。鑄型に溶けた金属を流し込んで金物を作り出すこと。またはその金物。
板取	ふるい分けした鉱石を水を満たした桶に入れ、鉄杓子でかき回し、沈殿した鉱砂を別に移して汰り板 <small>よ</small> にかけること。またはその職人。
板箕	いたみ。鉱石を入れて持ち運ぶ道具。
板持	底板を止める横張の木。
板矢木	幅3寸、厚み5分、長さ3尺くらいのもので、支柱の杵と杵の間の岩盤を押さえるためにならべる敷板。
一半	長さ10尺の坑木。
一丁前	請負能率。
いつき	鉱車、搬器、貯鉱庫などの底や側面に固着した泥鉱、泥石。
いぬ	帰る。
犬走り	坑道内の緩い斜面。
いや	上盤側の塊状硫化鉱。
いがる	大きな声で悲鳴をあげる。
岩つらら	鍾乳石。

インゴッド 金属を溶かして肩に流し込み、ある一定の形の塊にしたもの。

う

浮石 空洞の表面岩盤が緩み剥離しやすい状態になっている岩石。

うけがい 直径3寸くらいの丸太の人道で、段々になっているもの。

請山 請負で採掘精錬を許可した鉱山。

うちあげ 天井にうち上げるように繰った踏前孔の総称。

打つ 発破すること。

うつりを聴く 岩盤を打診し、浮石であるか浮石でないかを音響で聴き分ける。

内切 下財が所を請け負って稼業すること。

うに 泥炭。

馬繫 発破の際に孔口と孔尻が破碎され、中の部分が残ったもの。

馬乗 急傾斜層で上盤を支えるために入れた柱の上端から上下盤に概ね水平に入れたる木。

鱗 下盤側の凹凸をなくすために短い木や石で鱗状に積んだもの。

上(下)流 うわ(した)りゆう。上(下)盤側の硫化鉱。

上っ張り 坑内用の外套。

上盤 鉱脈や炭層の上方にある岩盤。

運上 鉱山などの営業従事者にかけた雑税。

え

えせこい ずるい。

えぶ 葛や竹で編んで作った籠。負紐をつけて鉱石運搬用に使用。

えぶ引き えぶを背負い坑口まで鉱石を運搬する人。

えれき 電気。磁気。

鉛重石 タングステン。

煙硝 黒色火薬。

お

負子 背負子。木製の荷を負う道具。

負夫 運搬夫の旧称。負子ともいう。

追廻堀 おいまわしぼり。急がない時の掘進方法。

陸堀 おかぼり。露天掘り。

岡廻 おかまわり。郊外の雑用係。

奥柱 漏斗口の奥正面の両端に入れる柱。

おこうろく 無報酬で働くこと。

押木 支柱枠の梁をいう。

御代頭 おだいがしら。金山奉行。大頭ともいう。

御手前山 藩直営の鉱山。御手上山。直山しきやまともいう。

落とし孔	下向孔子。
お中	鉦山の共同経営者。組ともいう。
おにはぶ	柘榴石の混じった虎ら皮のような模様をした虎はぶ(石英片岩)と磁鉄鉦の混じった最も硬質なもの(くろはぶ)の総称。
御婆さん	老練な選鉦婦。
帯	台積では転ばしのことをいうが、支柱枠では2本つなぎの柱の継ぎ目に横に入れる長材。
御へや	おひや。手代など職員の宿舎。
おやがつ	ごく親しい間柄の上長者。
親間歩	おやまぶ。最初に開かれた坑道。
おらぶ	叫ぶ。
折付	踏前に垂直にたたき付けるに水平に近く繰ること。
おんじゃく	「めんじゃく」ともいう。滑石のこと。

か

がい	支柱用 銚 <small>かすがい</small> の略称。
買石	かいし。山主から鉦石を買って製錬する者。
顔付け	出勤者を出勤簿につけること。同時に作業の割り付け、指示をすること。
鏡	鏡肌の略称。
鏡石	塊状硫化鉦が断層運動により研磨され、鏡のような光沢を呈するもの。鏡肌ともいう。
掛杖	負子を背負ったまま休むときに、負子の下に入れて支える杖。
懸り砂	鉦石のサンプル。
角樋	揚水管。
かけ砂	触媒用の鉦石。
隠間見	無許可の盗掘者。
鍛冶	鉦山では山師に属し工具類を制作修理する。
鍛冶職人	大工・左手・手子・吹差などの総称。
風箱	換気管。煙貫ともいう。
風上戸	換気装置の遮蔽扉。
頭手子	坑夫頭の補助(手伝)者の意。現在の一般担任相当する級呼称。
被入	かずきいれ。上盤向けのクロスカット。
加背	坑道の掘進面の断面または坑道の左右側面をいう。
加背付け	加背をそろわすこと。
加背割	坑道を切り広げること。
堅刈	堅い岩盤。
かたけ吹き	銀の製錬法。

型銅	種々の形に鑄造した銅。丸銅、丁銅、棹銅などがある。
片刃	選鉱過程で生ずる中品位の産物。
片盤	炭鉱で炭層の走行に並んで岩石中に掘り進んだ水平坑道。
鯉鋸	鯉節型の穴引鋸。
被	かずき。上盤。
被入	かずきいれ。下盤から上盤に向かって掘進すること。被入坑道を略して被入という。
<small>かづき</small> 被台	加背の上盤側に台積したもの。
鎌木	転ばしと転ばしの継目の下に入れる木。
カッペ	ドイツ語。切羽の天井を支えるため、鉄柱の上に取り付け壁面にまで伸びている金属製の梁。
金場	手選鉱場。
金箕	かなみ。鉄板製手箕(鉄製の鋤簾 ^{じょうれん})。
砕女	かなめ。鉱石を破碎選鉱する女性。選鉱婦。
砕女庄屋	選鉱方(係)。
鐘押	立坑のプラットと運転室に通じる信号機を操作する作業員。
銀切	かねきり。鉱脈に従って採鉱を目的として掘り進む坑道。
銀見	かねみ。請負作業の買収のことで、採掘立方、開坑延長など仕事の出来高を検査すること。鑑定ともいう。
かばち	切羽自由面の縦の面。
加奉	かぶ。鉱山の町役人(生野鉱山)。
かぶりつき	発破後、一定の場所に鉱石が塊状にかぶりついたように残ったもの。
ガマ	晶洞のこと。
かまさい	新入職員、新参者、素人のこと。余計な口出しをする人。
窯大工	焼窯の係。
釜の口	坑口のこと。四ツ留ともいう。
空繰	からくり。水を使用しないで削岩機で穿孔すること。
鋟	製錬、精錬の過程で生ずる金属のクズ。滓、スラグともいう。
からめて	砕いて捨てる金属にならない部分。
柄山負	土砂を坑道から運び出す手子。
がら	鉱石でない石や土。坑道から運び出す人夫をがら手子という。
がり	「がり鉱」ともいう。低品位の鉱石。
仮梯子	一二角で作った梯子。
がれ	山崩れ。
<small>かんぬき</small> 門	漏斗口などに設備し、漏斗口の大きさを加減し鉱石の抜き出しを制御するための横木。

皮	縞状ないし鉍染状の鉍石。皮鉍ともいう。
鉍	山元での製錬の鉍吹でできる純度50%程度の銅。溶かした銅の表面を水で冷やして剥ぎ取る。
かんかん	看量場、または看量すると。秤量機をさすこともある。
がんぎ	一本の柱で作った梯子の代用物。
かんでら	坑内で使用するランプ。燃料として当初は菜種油を使用。後はカーバイトなどを使用。
勘場	別子鉍山の総統轄事務所。
がんばん	並白米の俗称。
き	
貴鉛	南蛮吹の工程で抽出される銀を含ませた鉛。
木切	ききり。きりこのこと。
ぎち	粘土。ぎっちょともいう。
きつい	傾斜などの急なこと。苦しい。物を入れたり、着たりする場合にサイズが小さくて合わない状態をいう。
機夫	機械堀の坑夫。削岩機夫。
キューレン	削岩機で開けた孔にたまった岩石の粉を掻き出す棒。
切上がり	下部から上部へむかって掘削する坑道。
切負	坑内で鉍石や坑木を運搬する人。負夫の別称。大きな坑木を運搬する人は木曳切負と称した。
切下がり	上部から下部へむかって掘削する坑道。
切込	採鉍準備のための銀切で延長の極く短いもの。
切下	きりさがり。急傾斜。
切詰	坑道の突き当り。 坑木の不用になったものの短い切り端。
切流	きりながし。山根を切り崩し岩石を除いて土を汰り流す「ねこ流し」の原型。
きりのり	搭乗者自ら信号を発して立坑に搭乗すること。
切羽	採掘現場。
切夫	坑道を切り開く鉍夫。
金皮	鉍を吹いて金銀を採った後に残る物。
金壺石	砂礫や粘土に混じりあった鉄鉍石。
金渋	錆の混じった水。鉄渋ともいう。
金付石	金銀をこすりつけて純度や真偽を試す石。珪石の一種で試金石とも称し、和歌山県的那智に産する。
木馬	きんま。ソリ様のもので負紐を肩に掛け、手木を脇に抱えて方向をコントロールしながら木材などを引いていく運搬道具。

金見	金銀の良否を ^{ため} 験すること。またはその人。
金引臼	鉱石を砕く臼。唐臼。碓。
銀切	賃金を払って採鉱させる方法。
銀切坑夫	手掘坑夫の上手な者をいう。
銀米	上白米。
木馬道	木馬を引く道。道に2尺おきに丸太を並べ、摩擦抵抗を少なくした道。
金体	鉱石の品位。
く	
食焼	くいやき。鉱山役人に従う小使い。
鎖・鏈	くさり。鉱石。
くする	不発になる。
口屋	鉱山町の入口関所。第一泉屋道の天満にも天満口屋の呼称が伝わっている。
くらがり	坑内。
くろばぐ	磁鉄鉱の多く混じった黒色の珪質岩で鉱床の尖滅の際などに産することが多い。
くろはぶ	磁鉄鉱の混じった黒いハブ(石英絹雲母片岩)の最も硬いもの。
け	
軽銀	アルミニウム
傾斜	鉱床の走向と直角に測った傾斜角のこと。
下財	山主の下請け。稼ぎ人。元来は土地を持たない人の意味で「工」に属する職人。
下財場	坑夫社宅のこと。
減水方	廃水方、排水係。
消度金	アマルガムを塗って炭火をかざすメッキ法。
けたへ	酸素不足による気絶。
毛代名	けだいめ・問い吹きともいうテスト製錬。
けつを割る	仕事を完遂しないで投げ出すこと。
蹴ハンドル	一本剣のポイント。
げんこつ	ダイナマイト。
玄水石	磁石の異称。玄石ともいう。
検断	鉱山奉行を補佐する村役人。
元禄敷	矢木の敷き方の一つで、矢木と矢木の間次に敷く矢木の一端を挟めて敷く側壁方法。
こ	
坑井	^{すらし} 摺ること。こうせいともいう。 鉱石の揚げ降ろし。または吸気口に充てる小堅坑。
公儀山	幕府直営の鉱山。

後見	鉱石の仲買人。
坑水	坑内水。
強水	ごうすい。坑内の激しい出水。
鉱立	こうたつ。鉱脈の厚さのこと。立ともいう。
鉱夫	一般に鉱山労働者。年齢、技量に依って手子、負夫、横番、廻切夫に区分された。明治38年3月の鉱業法制定からは、採鉱・製錬事業従事者を鉱夫、その他を非鉱夫と称した。
坑夫	鉱石を掘る人。削岩機導入後は手掘り坑夫のこと。鉱夫の作業内容で運搬夫、削岩機夫、支柱夫、機械夫などと区分した。
坑夫頭	坑夫の長の意で現在の主席担任または次席担任に相当する旧呼称。
鉛石	鉛鉱。
交切	シストに直角、もしくはそれに近い角度で掘進すること。又はその坑道。
合力大工	公費で雇った大工。
汞和金	アマルガム。水銀と他の金属との合金。
坑木	坑内で使用する木材。
凍山	こおりやま。氷山とも書く。充填ズリが盤圧のために圧縮され固化したもの。後には固結状況いかににかかわらず充填物を総称した。
五個巻	支柱棒の形状で比較的新しい工法、四ツ留めより一辺多い形。
腰折	支柱棒の柱の1本が5ヶ巻支柱の柱と同様に1本柱でなく、2本つなぎで継目が外側にくの字型に折れているもの。
腰割	坑道左右の壁を切り広げること。
こすい	ずるい。
木詰	山詰め的一种で、坑木や木片などで充填すること。支柱棒と岩盤の空間を埋める材木。
ゴスタン	車両の運転用語で、後退せよということ。
断山	ことわりやま。開発申請中の鉱山。
こぶ打	瘤のように出っ張った所を発破して除けること。
込棒	爆薬を削岩機で開けた孔に押し込むために要する木製の棒。
コラム	ドリフターで穿孔する場合、期待を支持する鉄柱。
転ばし	建被台の天盤を揃えて平均に荷がかかるように入れる長材。横入れ柱。
転石	ころびいし。鉱石が山腹や川などにて転在するもの。
強金	こわがね。きわめて硬い金属。
こわり	金属を含まない石。珪石類。
金平糖	立坑プラットにおける鉱車止め。
さ	
採鉱坑夫	手掘り坑夫の下手な者をいう。

採丁	堀子ともいう。
竿金	竹流しとか、筋金ともいう。竹筒に金を流して鑄込み、必要に応じ輪切りにして使った。または製錬したその金。
棹銅	精錬された銅を輸出用として棒状に鑄造したもの。長棹銅は地売用で針金の原料となる。
逆面	上盤あるいは下盤の傾斜面に極端に飛び出した段。
逆木	末口を下にして立てた柱。
砂金鹵石	さきんろせき。カルシウムとマグネシウムの塩化物で岩塩とともに産出する。光鹵石(カーナライト)。
柵内	鉱山を特別区として柵で囲み、出入口を定めて番所を設けた。別子銅山では表門、裏門と呼んだ。
左下	さげ。鉱山の鍛冶職人。
さし	滓。おり。
差銀	さしぎん。金貨を鑄造するとき混合した銀。オランダ東インド会社では、出島で購入した丁銀は純度が80%だったので鑄直して100%にして使った。
差込	立込みプラットでケージ内に鉱車を差し込む者。
砂手物	さてももの。稼ぎ人に与えた切り羽の屑鉱石。
さける	東北地方で泥炭のこと。秋田では「ねっこ」、新潟では「やちはた」長野では「やちまぐさ」ともいう。
サポート	手持ち削岩機を穿孔時支え、手動で伸縮調整するレッグ。
座元	銀切の足元。
猿機械	軽便索道のこと。野猿 <small>やえん</small> ともいう。
山内	山主に従属する稼ぎ人の集団。たたら職と鍛冶職。
し	
地売銅	国内用に鑄造された型銅。丸銅は鍋用、丁銅は銅板用、長棹銅は針金用。
仕落	手上げによって別の山主が間歩を落札すること。
塩見	鉱石品位の目きき。
支階	支柱枿(坑道)の総称であるが、主として鳥居枿のことをいう。
仕替	支柱。
仕掛	心抜。鉱脈に沿って掘進する坑道。採掘の準備工作。
仕掛銀切	掘進のための準備坑道。
直山	じきやま。幕府や領主が直接経営支配した鉱山。
四方見	測量師。天体を観測する。
仕からし山	廃坑。廃山。
舗	坑内。
舗方	後の採鉱課に相当。

鋪着	作業衣。
鋪口	坑口。
紫金	「しきん」は赤胴の異称。「しこん」は紫色を帯びた精良な黄金、紫暦金ともいう。
しずり	坑内の滴水。
紫蘇鉑	鉑斑銅鉑のこと。紫蘇のような色に近いことからの呼称。
仕捨堀場	しすたりっぱ。出水などのため放棄された間歩。
垂	したたり。製錬量。
下盤	鉑脈の下方に接する岩盤。
漆荷	しっか。品位の低い鉑石。
しつり	坑内の滴水。
仕手	山主の下請け。金子ともいう。
自分山	山主が自己の責任で採鉑する山。
絞銅	南蛮吹の工程で合銅から貴鉛を分離した残りの銅。
四方矩 ^く	傾斜測量器。
車曳	鉑石を鉑車に荷造りして運搬すること。
しゃくる	再発破する。
斜坑	斜めの坑道。
しゃり	純粹の錫。
ジャンボ	ドリルジャンボの略称。
重土	酸化バリウム。
上鉑	黄銅鉑や斑銅鉑に富む高品位の鉑石。上鉑。例えば、菜種鉑、蕎麦皮、よもぎ、なりかえり、ひとはがい等。
小尖	しょうせん。浮石を姑息するとき使う金属製の長い棒。
しょうど	晶洞という意で転じた裂鉑した石英。
焼鉑	山元製錬で焼窯などで焼いた鉑(銅鉑石)のこと。
定判役	追堀りに課した運上金。
種木	広い範囲を支えるため打柱に笠木を乗せたもの。柱の下に下駄をはかせたものを建種木という。
所務山	鉑山に課す運上形態。
白石	しらいし。石英。
白くず	しらくず。鉛を含んだ錫。「しろめ」ともいう。
白じ	硫化鉑の品位が低く黄色よりもやや白味の多いもの。
白砂	しらす。火山灰や軽石の層。
尻すけ	藁または葛で編んだ尻当。
白千枚	絹雲母片岩。

シンカー	下に向かって穿孔する削岩機。
白目	南蛮吹の工程で合銅から分離する物質で、アンチモンや砒素が其の主成分。白味ともいう。
白塗	銀メッキ。
白札山	採掘許可証を下付された鉱区。
代分	しろわけ。利益の配分。
鎖金	金属を溶かすこと。またはその金属。鑠金(しゃつきん)ともいう。
神荷	鉱石売却の日ごとに、山主一人に一荷ずつ現品で支払う手数料。
陣笠すずり	石墨片岩の陣笠のように湾曲した肌の滑らかな鉱石。
しんどい	疲れる、難しい、つらい。
人道	坑内で人が通行する道。
芯抜き	発破を効果的にするために、最初に数本の発破孔を爆破し、自由面を作ること。

す

すあい	買石に同じ。
水鉛	モリブデン。
素石	すいし。鉱石以外の採掘された岩石(廃石)。ズリともいう。
すかし	手ノミ。
銑	ずく。特に鋳物鉄。古来の砂鉄製錬法による和鉄。
スコ板	スコ台の上に敷く板で、山の中にスコップを差し込むのに迂りをよくする。
スコ台	スコ撥を容易にするための板敷。
スコ撥	すこはね。敷板の上に落ちた鉱石や素石をスコップですくい取ること。
すずり	泥質片岩。石墨片岩といった時期もある。石英細脈の多いものを白黒すずり、片理に凹凸のあるものを陣笠すずりという。
捨柱	応急用の仮柱で一時的ように供するもの。
スタンド	ドリフターを支え、固定する鉄柱。
ストーパー	上方に穿孔する削岩機。
炭灰	すばい。木炭の粉末。乾燥させるために炉の壁に塗り込めたり、少量の炭が必要な場合にも使う。後に銅製錬の熔体を流す樋などに使用する木炭やヨークスの燃え殻の粉碎物。
炭方	製錬用の木炭を製造する係、後の製炭課。
すぼん樋	佐渡で用いた揚水ポンプ。
炭坂	たたら製鉄の責任者の村下を補佐し木炭を管理する。
炭焚	炭坂の助手。
スラグ	緩、滓のこと。
摺	ずらし。坑井のこと。鉱石摺、素石(山)摺などがある。
ずり	本来は山から木や鉱石を投げ落とす所。鉱山では落ちこぼれて残った鉱石。

「ぼた」の意もある。糜石。

ずり場	ずり捨て場。
寸五板	厚さ1寸5分の板。
寸法木	支柱に入れたときに寸法を測る木。
寸法切	方位を見立てて外部から掘り進む方法。樋延(ひのべ)ともいう。

せ

盛山	発破、爆破。
盛山棒	手掘り用のタガネ(のみ)。ビット。
製錬	鉱石を高温で加熱・溶解し、不純物を取り除いて純度90%程度の粗銅を作る。
精錬	粗銅を更に加熱・溶解して純度を高め、ほとんど不純物のない状態にする。
瀬打	坑内排水溝。
せこい	「しんどい」と同じような意で、苦しい、疲れる、難しいこと。
穿通子	ドリル。
セットウ	坑夫が岩石を掘る時に使う西洋鎚。フランス語のマーセットウの略語。石刀と書くこともある。

そ

走向	鉱床の延長方向のこと。
そつにする	無駄にする。
袖	階段堀切羽の自由面の階段の部分。
蕎麦皮	皮鉱の一つ。黄銅鉱に近く蕎麦かすの様な斑点のある鉱石。
そみかくだ	曾美加堂。山伏の異称。
底入	急傾斜層の筏をその上にのせ、安定させるための2本一対の受柱。切上では山留。足場兼用の堅固な2本一対の足場木。

た

ダイ	ダイナマイトの略称。
太鼓張	柱の両面に板を張ること。
大工	山主に従属する堀子のこと。
胎土	土器を作る粘土。
台積	盤圧が強いために坑道の加背が内側にせり出してくるのを防止する目的などで加背に短い木や石で腰壁を積むこと。
台所	勘場とその付近の間歩。
筧	たけのこ。穿孔中つまって抜けなくなったビット。
尋堀	たずねぼり。試掘。さらえ掘り。
たださ	中国山地に産する砂鉄で、たたらともいう。根岩の露出した所でもある。
立合	鉱脈に沿った石英などの層。
立廻し	その仕事が完成せず次の方(日)に繰り越すこと。

立	たつ。採掘する上下盤の高さ。
だつ	鉱石を容れて背負う籠。
たつ 立柱	支柱柱杵の2本つなぎの柱の下にあって坑道路前から立っている柱。普通には柱ともいう。
建	たて。下盤。
建入	たていれ。下盤向けのクロスカット。
立坑	垂直に上下に通じる坑道。堅坑とも書く。
建台	加背の下盤側に台積したもの。
棚	間歩内の堀場。
棚木	足場用10尺丸太で、径3～4寸くらいのもの。
玉金	山出しのままの純金。
達磨	「だるま返し」ともいう。前開鉱車が傾斜して自動的に開く軌条端末の装置。
垂	たれ。傾斜方向の長さ。
鍛造	金属を加熱し、たたいて成形すること。
胆礬	たんばん。硫酸銅からなる鉱物で、二次的生成としては鉱山の水中存在する沈殿銅。丹礬と書くのは間違い。

ち

挺	間歩内の長さで一挺は六尺。高低あれば七尺。
丁場	採掘場。
鑛石	真鑛の異称。本来はペルシアに産するという天然の真鑛。鑛を「とう」と読むときは自然銅の優れたもの。
鑄造	金属を溶かし、型に流し込んで成形すること。
中鉛	土鉛(最も安価な粉鉱石)と根戸鉛(最も高価な鉱石)の中間に位置する鉱石。
ちゅうば	事務係。
ちよいゴス	一寸後退せよということ。
ちよろ孔	少し水が溜まるくらいの殆ど水平に近い下向孔。
チン	チェーンのこと。
チンカケ	鉱車連結チェーンを開結すに使用する手かぎ。
チングだ	盤が堅いこと。
賃吹	製錬高による請負い。

つ

通洞	主要運搬坑道。明治になって西洋から導入された採鉱法の基盤である。
突合敷	矢木の敷き方の一つで、矢木と矢木の間次敷の敷く矢木の端を突き合わせて敷く方法
付石	つけいし。珪石の一種で滑らかな黒色緻密、金銀をすり付けて真偽や純度を験す試金石 ^{ため} 。

鎚おろし	仕事始めの新年とか新業上に変わった初日をいう。
鎚手	鎚を持つ手の側の意。切羽に向かって右側。
突掛 <small>つっ</small>	鳥居柱の一種であるが、梁の一端を直接岩盤で支えるため片側の柱のないもの。
突込	かせの奥行。
繫	支柱と支柱を繋ぐ木。
つなし	選鉱婦が使う鉱石を砕く槌
禿	つぶれ。採鉱が不能になる倒産。
坪・壺	間歩内の堀場、採鉱場。
詰	行き詰まり。最奥部。
詰木	石で台積するときに、その中にクッションを入れている短い木。
面	切羽自由面。

て

出合い	他の坑道との貫通箇所。
手上	てあげ。鉱状の好転に応じた運上金の増額。
丁銅	型銅の一種で四角形。銅板用。
手子	山主に従属し鉱石や土砂を坑外へ運び出す人夫。採鉱、運搬、精錬の手伝いをする人。年齢で区分し、15歳までは <small>こま</small> 小手子、20歳までは <small>ちゅう</small> 中手子、23歳からは <small>おせ</small> 大手子。 棒心の手伝。
でこ柱	坑道の台(または加背中の岩盤の凹部等)から短い柱をたて支柱柱の梁を支える柱の一種。
出山役	下山する坑夫に課した税。
てれこ	物の位置や順序が反対のこと。
てれむき	斜上向。
ふんぷな	乱暴な、不安全な。

と

問吹	含有量のテスト製錬。
銅座	銅座役所のこと。近世の大阪に設けた銅の統制機関である。
毒砂	硫砒銑鉱。
床	製錬をおこなう作業場。炉のこと。
床屋大工	製錬係。
床尻銅	山元での精錬の鉞吹で鉞を剥ぎ取った後に残る銅。鉞に比べると純度は高く既に粗銅となっている。
所	間歩内の坪を更に区切った堀場。
床瀬	鉱床に同じ。

寄生	とじ。自然銀を銀寄生という。
土鉛	安価な粉鉛。下鉛。
滓	どぶ。製錬・精錬の過程で生じる金属のクズ。鉛石中の珪酸鉄など不純物で鍍、スラグともいう。
どべ	水分の多い泥。
どべごぐり	人が泥を踏んで攪拌し、排水しやすくすること。
留木	落盤を防ぐ坑木。
友子	一人前の坑夫。鉛山労働者の自主的集団組織として出発し作業の習得災、災害、職業病の互助共済を目的とした。またはその組合員。
虎鉛	蓬鉛よりも更に上質でトラの皮のような模様の鉛石。
取明	とりあけ。崩落して閉塞した坑道を取り明けて坑道をつくること。
ドリフター	架台等に取り付け主に水平方向に穿孔する大型削岩機。
トロ	レールの上を手で押す箱製の運搬車。
どろがい水	泥水。
トロリー	トロリー線の略称。
どんたく	旧用語で公休日のこと。(当時は月2回)
どんでん	3の方から2の方に、あるいは2の方から1の方に逆転する勤務(交代の間に休日が入らない時)。
どんどろ	雷鳴。
な	
直利	鉛床が肥大して富鉛部を形成すること。
直る	鉛床の採掘で脈幅や鉛質がよくなること。
中通	なかどおり。中位の高さに通っている坑道。
仲持	粗銅、食糧、日用品などを人力運搬する人。炭を運ぶ人は炭仲持と呼ぶ。
流し	板取で捨てられたものを木綿漉しにすること。
中柱	支柱枠の2本のつなぎの柱の梁を受ける柱。台の転ばしの上から梁を支える柱。
生子	なまこ。型に流し込んだ金属。
生切	柄の付いたタガネ。
菜種鉛	黄銅鉛に富む品位の高い縞状鉛(皮鉛)の一つ。
鍋尻	床尻。熔鉛のとき銅分が土中に沈殿したもの。
生鏈	鉛と同じく鉛石のこと。
なりかえり	黄銅鉛に富む品位の高い鉛石の一つ。
なるい	緩やか、平坦。
南蛮絞り	銀を含む粗銅に鉛を加え、吹き溶かして骨灰の器に入れると鉛が骨灰の中に滲みこみ銀が残る。南蛮吹き。

に

二階	「二階をかく」といい、高落箇所为天盤を支えるため支柱枠等を二重に組むもの。
ニカイ	合吹床・汰場にある水槽。鉱山では坑内排水用の水槽を荷替(別子)、にかひ(多田)という。
荷が来る	盤圧で圧される。
にずり	作業衣。
二代	採掘跡に残っている上・下盤の硫化鉱で式2代にわたって採鉱することから生まれた言葉。
になわし	担せ枠のこと。1本の梁の下に2～3本の柱を立てたもの。
荷分山	運上形態による鉱山の分類。
にぶり	坑内作業服。
にやし	溶解湯の上におく触媒。
直入山	ねいりやま。鉱状に応じて運上を競って請け負う鉱山。
値打	鉱山町に出入りする物品の評価人。

ぬ

縫抜	ぬいぬき。坑木などを天盤に差し込み、天井を押しえながら取り明けていく方法。差矢法のこと。
抜手	漏斗口で戸前をあげ鉱車スキップ等に射し込む者。
抜会	別々の坑道と坑道が貫通した箇所。(但し1本の坑道を両方から掘進して貫通した箇所ではない。)
ぬた	断層の粘土。

ね

ねこ	別子式手持削岩機のこと。
ねこ尻押え	溝の中に8～10mごとに築いた高さ1～1.5mの石築(やな)。
根戸	舗の最も低い場所。
根戸鉋	最高価の上鉱。
ねとひ	粘土層。
ねとり	最下段の排水樋。幾段も樋を継いで揚水した。
ねぼり	支柱の根元が滑らないように岩盤を穿ったところ。

の。

のばえ	野積みのこと。
のみ手	ノミを持つ手の側の意で、切羽に向かって左側。
昇り	種木と大体似ているが、盤の軟弱な処をより広範囲に支えるため大体6尺以上の笠木を柱にのせたもの。
乗りまわし	操車する人。

乗物間切	天頂円弧の間分歩。
のろ	鉍滓。鉍。
は	
灰吹	金銀を含む鉛鉍に骨灰をかけ溶かすと、鉛が灰に吸収されて金銀が残る。
馬鹿孔	心抜の補助孔。
はがし	銀を含む銅の溶解湯。
鉍	銅鉍石のこと。
鉍買	坑務係、坑道係。
鉍吹	山元製錬で、焼鉍を鉍吹床で溶かし、鉍と床尻銅を取る工程。
薄石	品位の低い鉍石。
羽口	鞆から吹床へ風を送る管の、床側の先端につける耐火性の筒。
鉍吹	木炭と焼鉍に珪石類を加えて溶解、鉍とどぶを除去すること。鉍は鏈(くさり)と同じ鉍石のこと。
鉍持	碎女庄屋の指揮を受けて鉍石を焼窯に運搬する人。
箱樋	木製の排水ポンプ。
柱持	坑道用柱を杣夫 <small>きこり</small> のところから坑内へ担いでいく人。
走	水平に掘進する坑道。
端山	はしやま。金銀山以外の鉍山。
ばたばた	立坑プラットフォームにおける警戒棒。
肌	断層のズレ。
はたきもの鏈	石臼で粉碎しなければならない鉍石。
はち孔	発破効果のなかった孔。
発破	穿孔に火薬を詰めて点火爆発して鉍石や岩石を破砕すること。
発見鏈	岩盤点検用ハンマー。
はね <small>はね</small>	はね。出鏈高の山主取り分。
はぶ	石英絹雲母片岩。
腹	坑木のゆがみ、へこんだ側。
払い	芯抜きの周囲を既定の寸法まで広げること。
ばらす	崩壊させる。解体する。
張	支柱が横に倒れないように岩盤や他の支柱から突っ張る木。
張込	坊主(打柱)のように盤にほぼ直角に入れるものではなく、柱をほぼ水平に入れる上・下盤や天盤を支えるもの。
針金	針金のように銅鉍の入った品位の低い鉍石。針金鉍。
ばれる	崩壊する。
半切	鉍石を洗う桶。
番子	たたらを踏む職人。

搬器 索道で運搬する運搬具。
半車 鉱車の半分のこと。
礬土 硫酸を含むアルミナ。
ハンド坑夫 手掘夫に対する用語で、削岩機を使う坑夫。

ひ

ひ 鉱脈。漢字は金通 鉱(つる), 鏈(くさり), 立合(たてあい)ともいう。
ひ押し 鉱脈に沿って掘進すること。またはその坑道。
ひ立 採掘現場に現れた鉱石の面。または坑道・切羽の切詰め。
引 採掘立方、開坑延長等を測定する時の基準点、もしくはその基準点から作業開始箇所までの距離。
引出 立坑プラットフォームでケージ内の鉱車をかえして空にする者。
ひこずる 発破後、下盤に鉱石が幅広く帯状に、引きずったように残ったもの。
砒石 砒霜とも書き砒素系の鉱石。誉石ともいう。
引立 ひったて。切羽の採掘面。
ひして 1日間のこと。
ビット 削岩機に取り付けて穿孔する鋼棒の刃先。
ひとはがい 黄銅鉱に富む品位の高い鉱石の呼び方の一つ。
一葉皮 黒い斑点が笹の葉のように細長い鉱石。
火縄堀 急ぎのとき、檜の皮で作った一定の長さの火縄が点火している間に行う採掘方法。
日前 稼業期間。
日役 日当賃金。
貧皮鉱 縞状鉱で鉱石分の少なく、銅分の低い鉱石の総称。
ビン 鉱石を貯蔵する所。

ふ

振矩師 ふりがねし。測量師。
吹差 ふきさし。熔鉱担当の鍛冶職人。
吹大工 製錬師。
吹く 風を送って金属を溶かす作業のこと。そこから金属を精錬したり、铸造したりすることをいう。
吹寄 断層の裂け目や晶洞の割れ目などの空洞に自形結晶が生じたもの。
普請 ふしん。鉱に当たるまでの掘進工事。素普請ともいう。
ふち 箱樋の中の水を掻く長さ3尺位の棒。樋の一引。排水ポンプの一ストローク。
古砂せり 舗の内外に落ちこぼれたずりを拾い集めて製錬すること。
歩付 含有率。
分筋金 山吹銀から分離した金。

踏付 坑道の直ぐ下の部分。
プラッガー 重量の軽い手持ち削岩機の総称。
プラット 立坑と水平坑道の連絡点。プラットホームの略称。
禰板 坑道に棚をかけ、その上で採鉱した鉱石を棚の下にある鉱車に落として積み込むための棚の中央線に1.5尺くらいの間隙をあけて棚板を張ってあるが、その間隙を閉塞するための取り外し自在の2尺くらいの板。

へ

平面 採掘跡などで充填ズリの周囲に積む石がけ。
へたる 疲れてのびる、ずるける、さぼる。
へどろ 側溝などに沈降している泥状のもの。
紅鉞 黄銅鉞の表面が斑銅鉞のような色を呈するもの。

ほ

包板 ほういた。漏斗口の側板。
棒取 負夫が削岩機用のビットを運搬したことから運搬夫のこと。切羽で使用するビットの配給・回収役。大型削岩機の穿孔ビットの先を以って手伝う者。
棒心 ボーシン、親分、一部の責任を持つ鉞員。
坊主 上・下盤ともに根掘して入れる打柱。
ポスト 削岩機据付用柱。
法地 一人の山師鉞区。四つ留口を基準に六間の範囲。
ぼたもち坑夫 下手な坑夫。
ホッパ 豆の葉のような形の鍬のこと。
ほてむき 最適。
ぼほさんぎ 焼窯の燃料にする雑木。長く丸い薪。
掘子 鉱石を掘る人。後の坑夫。
掘倒 ほりだおれ。採掘のため潰れた田圃や畑。
掘荷 吠(かます)に入れた鏈。
掘間 舗を持つ業者。
掘分山 運上形態による鉞山の呼称。
本梯子 角梯子もいう。二三角材で作った梯子。
本番 本磐。本舗。四つ留のある主坑道。
本判持 村単位の採掘許可。
本前 ほんまい。生鉞500～600貫を吹一枚と称し、吹六枚の一日分吹分け。早出残業ではなく普通の勤務時間のこと。あるいは閉場している仕事のこと。

ま

前柱 漏斗口の前正面の両端に入れる柱。
前肌 ぼろ布。

まがる	邪魔になる。
まぎ	松、杉、檜などのような針葉樹。
間切	本番を区分して採掘すること。
まくる	投げ捨てる。「捲る」の意味で使う場合がある。
まご	石の割目や切込み部へ打ち込み、石割に使用する長さ1尺の石工の用具。
真砂	まさ。中国山地にのみ多く産する砂鉄で、海拔500m以上の背梁部から出る。
間符	坑道。別子では坑口に護符を掲げるので「間符」と書く。転じてトンネルの事をマンブと呼ぶ。
間吹	真吹とも書き銅の製錬工程。
招	まねき。手前の方へ飛ぶように斜下向きに繰ること。
間堀	追堀に同じ。
丸銅	型銅の一種で円形のもの。鍋用。
丸はち孔	全然発破効果のなかったもの。
廻切夫	二三銀切では、縦に3区画、横に6区画の合計18区画に区分して数名の坑夫が順中心空回りへと順次切っていったのでそのように呼んだ。坑夫の熟練者。
マンブ	間符がなまった坑道の呼び名。トンネルのこと。
万石	鉍石を粉鉍と塊鉍にふるい分けする道具。

み

見合い	斜坑、立坑、水平坑道の連絡点。
水樋	角張または丸武の樋。
水引	木製のポンプで水を汲み揚げる人。
水夫	排水夫。
三角	みすま。東延斜坑底のこと。美寿満とも書く。
導火	みちひ。導火線のこと。
みよ	まよ。金子のこと。
見石	鉍石のサンプル。
水上輪	みずあげわ。螺旋軸が内部に取り付けられている筒で、手動で回すと水が揚がる。佐渡金山で使用されるが、螺旋と筒の間が密閉できないので効率は良くなかった。
水入らず	優れた鉛鉍。
水坪	水が溜まっている坑道。
水抜	水貫。本番に横穴を開けて水を抜くための坑道。
水のみ角	鑿で印した溜水の水位。
水盛	みずもり。水準形。
道草	坑道の普請中、偶然に出た鉍脈。
実無鏈	みなし(皆石)。不純物のない鉍石。

脈幅	鉬脈の上盤から下盤までの垂直距離。鉬脈の厚さ。
む	
向切	むかいきり。山の反対側から、両坑口から掘進すること。高度の技術を要し、傾斜計や五分儀(天体観測用具)・コンパスなどを用いた。
紫石	含紅簾石石英片岩。
め	
目細	めごま。硫化鉬が酸化して粉状になった銅分の大部分が流出した品位の低いもの。
飯食	めしくい。他人の家に同居する単身者。
も	
燃石	もえいし。石炭。
もたし	急傾斜層に筏を組む、上の横物が下におちないように、持たしておく柱。
もぶれる	よていより遅れる。
紋々	孔座。
や	
やいとを据える	ダイナマイトを張り付けてはっばすること。
焼	焼鉬。
焼木	薪。
矢木	小径の丸太材で支柱と支柱の間に張り渡して岩盤崩落防止の壁としたり、足場や筏を組む台としたもの。
焼石	方解石で銀銅吹き分け熔媒剤。
焼窯	鉬石を焼く窯。
役宅	役員の家。職員社宅のこと。
役手子	頭手子。坑夫頭の下で準職員の俗称。
役頭	やくとう。主任、後の課長に相当する職の俗称。
役頭脇	やくとうわき。後の課長補佐に相当する次席者の俗称。
やけ	露頭。
矢げん	ヘッドシープ。
安米	所定就業日数働いた場合に、市価よりも安く売られる米。
役局	やつきょく。坑内役付の者の詰め所、坑内係員詰め所、坑内現場事務所。
山	鉬石以外の岩石。
櫓	やぐら。高落箇所为天盤を支えるための坑木を縦横に積み重ねたもの。
山色	下財に分配する利益。
山が荒れる	鉬山災害が多発すること。
山搔	やまかき。破碎鉬石や素石を鍬でかくこと。
山金	「やまがね」は鉬山から掘り出したままの鉬石。「やまきん」は鉬床から出て

くる黄金。

山先	初めて鉱脈を発見した山師。
山車曳	素石を鉱車で運搬すること。
山鎚	ハンマー。
山詰	採鉱跡の空洞を岩石で充填すること。
山留	落石を止めるための底入(棚)のこと。転じて明治以前における主帯坑夫頭の呼称となる。留大工ともいう。山元の取り締まり。
山取	破碎鉱石や素石を鉱車に積み込むこと。
山取坪	採鉱跡充填の岩石を得るため、鉱石以外の所を掘削する所。
山鳴り	山はねの時に瞬間的に発する音のこと。
山はね	岩盤内部に蓄えられたひずみエネルギーが急速にかいほうされることにより引き起こされる岩盤の破壊現象。
山吹	山元での吹き分け。
山廻	鉱山町の地役人。仕法に習熟している浪人が任ぜられた。山長。大人(乙名)。

ゆ

湯床	小吹のとき、湯の中にある鑄型の上に敷く布。その上に溶かした銅を流し込む。
ユリカス	^{ゆりもの} 淘汰によって銅分を回収した後の砂
ゆり鉢	淘汰するときを使う鉢。
淘汰	ゆりもの。精錬作業終了後に銅分の付着した吹床や坩堝・羽口などを粉碎し、ゆり鉢を用いて水中で比重選鉱して銅分を回収すること。
汰り物	臼で砕かずすぐ吹ける鉱石。

よ

よいしょいる	疲れて伸びてしまう、倒れる。
よき	斧。
よきさし	支柱夫のこと。
横相	よこあい。鉱脈に対して直角に切り当てる方法。
横抜	採鉱跡の中間通路。
横番	主坑道から横に掘った支坑。掘子の別名。
溶剤	製錬のときに鏈鉱から夾雑物を除くために加えるもの。銑鉄に石灰石のごとし。
葉鉄	錫を鍍金した薄板。ブリキ(オランダ語)。鉄葉ともいう。
熔范	古代の鑄型。
四つ留口	釜の口ともいう外部に開いた坑口。崩壊を防ぐために井桁の枠が嵌めこまれている。鳥居型に組んだ支柱。天井の柱を押木または枠という。
蓬鉛	黄銅鉱に富む品位の高い皮鉱の呼称のひとつ。ヨモギのような模様の上質の鉱石。

よもだ ずるい、手に負えない、筋が通らない。無茶苦茶。
鎧敷 矢木の敷き方の一つで、矢木を敷き並べた上に、次に敷く矢木の端を重ねて敷き並べる方法。

ら

雷管 薄い鋼管に起爆剤輪詰めたもの。
落盤 浮石が広範囲にわたり崩落すること。
螺燈 サザエの殻に鯨油を入れての坑内作業用の照明具。明治28年にカンテラが導入されるまで使用した。
ラシド 大型削岩機(ドリフター)のこと。
羅盤 方見ともいう。コンパス。
嵐石 溶媒剤。

り

硫化 塊状硫化鉍のこと、
流錫 りゅうじゃく。砂錫。
龍頭 りゅうず。坑道、立坑、斜坑などの空間を維持するために、その周辺に残された岩盤。ピラー。
輪木 枕木のこと。

る

留粕 るかす。灰吹によって生じた灰を含んだ鉛。
坩堝 小吹の工程で用いる銅を溶かすための容器。粘土に粃殻などを混ぜて焼いたもの。

ろ

鹿鉍肉 銀精錬のとき、鉍石の粉末を水樋に入れ攪拌し、そこに沈むものをいう。これに対し浮くものを梅沙と称した。
廊下 立ち合いに到るまでの水平坑道。
礪砂 ろしゃ。火山昇華物として産する塩化アンモニウム。
ろおは 硫酸銅を含んだ坑水。
ロッド 削岩機の鋼棒。
露頭 鉍床の一部が地表にあらわれていること。

わ

若衆 わかいし。若者。青少年従事者。
わき孔 わきあな。所内の孔以外に繰る短い補助孔。
涌上り鉍 鉍脈の露頭。
渡 走行方向の長さ。
割 かせの区域。
割チン 連結チェーンの補助に使用する一部分口の開いたチェーン。

割込 網木にかかった大塊を玄翁で割り込むこと。
碗かけ 砂金を汰ること。ねこ流し。

2. おわりに

とりあえず50音順に並べた。並べながら、これまでに別子銅山で聞かない鉱山用語もでてきたが、機械的にキーボードを打って行った。それでも鉱山史を紐解く際の一助になればと思う。

編集している最中に「仲持さんは、どうして仲持さんと言うのか」と、問い合わせの電話が掛かって来た。考えてみると知っているつもりでいたが、本当のところはわかっていなかった。そこで文末に自分なりの理屈を記しておく。知っている人がいたら教えてください。

仲持さん：男女の中を取り持つ人のことを「中人」と言うように、「中」は間を取り持つことを示す。間＝中で、人が行うことを示すために「人偏」が加わっている。本舗と中宿、中宿と中宿、中宿と口屋の間の荷物を取り持つ人、具体的には人力運搬する人をいう。または、中宿への荷物、中宿からの荷物を人力運搬する人。牛や馬で運搬する人は、牛や馬の使い手として、牛方・馬方と呼ばれる。山中では、木を取り扱う人は木方、鉱石を掘る人は山方。

参考文献

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 日本鉱山史 | 小葉田淳 |
| 神岡鉱山史 | |
| 「地名を掘る」の古今鉱山用語集 | 小田 治 新人物往来社 |
| 鉱山用語集 | 金属鉱山研究会編 |
| 別子銅山坑内用語集 | 住友金属鉱山(株)別子事業所第一生産部 |
| 別子鉱山用語集 | 住友別子鉱山史・別巻 |
| 銅精錬関係用語集 | 特別展「よみがえる銅－南蛮吹きと住友銅吹所」
大阪歴史博物館 |
| 近世銅精錬関係用語集 | 住友銅吹所跡発掘調査報告書
財団法人・大坂文化財協会 |